

2012/10/9

## 柏の景気情報（平成24年10月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成24年10月分）

○ 調査期間 : 平成24年10月24日 ~ 10月29日

○ 調査対象 : 柏市内161事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	161	104	64.6%
建設	45	27	60.0%
製造	35	22	62.9%
卸・小売	44	35	79.5%
サービス	37	20	54.1%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

## 【平成24年10月の調査結果のポイント】

### ◀ 業況DIは全国と同値に ▶

○10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.6(前月水準▲36.9)となり、マイナス幅が4.3ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲18.5(同▲28.0)、卸小売業▲51.4(同▲58.8)、製造業▲18.1(同▲23.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲35.0(同▲18.7)である。

【建設業】からは、「売上採算資金繰り全体が低迷状態。業界でも良い話は無く先行きを心配する声が多い」(電気工事業)、「相変わらず材料高騰、施工単価の引き下げと言った状態が続いている。そんな中で一部材料が品薄状態で早めの発注となり材料値下げに対しての交渉はできない。仕事の依頼はあるものの単価的に採算が合わず断る事も仕方がない状態となっている。赤字にならないなら受注するが完全に採算割れ状態の時すらあり、資金繰りとともにこの先の問題」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「機械の受注はやや持ち直しているが、納期が短い上に金額的にもかなり厳しさを増している。納期が複数、重なっており、その意味でも人員が不足している。新規の部品加工業者からの売り込みが数多くあり、聞く所では大手が海外転出や拠点閉鎖による影響であり、逼迫した様子が伺える」(その他の機械・同部品製造業)、「材料価格は下落傾向出てきているが、昨年から上昇し続けた前までは下がる様子は無い為、依然、利益圧迫要素は無くならない。従業員数がやや不足気味となっている為、求人出しているが反応が良くない」(紙製容器製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「秋物衣料もピークがこないまま終了になりそう。冬物衣料も今年も暖冬傾向が予想されコート等に期待できず小物でカバーするしかない。食料品等にも価格に対する要望が大きくなってきている。無駄なものは買わない傾向」(その他の各種商品小売業)、「青果物の動向として秋の気候が野菜の生育順調となり入荷が増加。しかし消費者の購買意欲に期待できず単価安が長期化して厳しい取り扱い状況です。また秋の味覚の果実にあっても平均して同様となっている。今後の経済状況を見ながら安定が望めないことを消費者が感じ取っているようです」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「相変わらず不動産価格及び建売住宅等は下落しています。地元の人が柏市内で条件が良い物件を購入している状況です。外部からの購入希望者は皆無です」(不動産管理業)、「貸し駐車場がこの一年くらいは満車になったことが無いのでガソリンの高騰やライフスタイルの変化で自家用車を持たない人が増えた感があります」(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎売上減少

各業種から、「売上の減少。仕入単価の上昇に寄り採算は減少の見込み。生産の効率化や不良品の減少に努めて対策をする」(その他の金属製品製造業)、「例年なら涼しくなると売り上げが伸びてくるのですが今年は伸び率が先月同様鈍いです」(菓子・パン小売業)、「割引セール実施で客数はプラスだが、割引ぶんだけ売上は減少。冬物商戦に期待する」(その他の飲食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎日中韓関係

各業種から、「全体的に取引減。自動車関連は減税等が終了した反動と日中間の問題で限定的にマイナス。長引く恐れあり」(金属素材製品製造業)、「中国韓国との政治的及び経済的悪化による輸出の急激な減速とともにEUの経済不安が続いて国内の生産に影響している」(一般産業用機械・装置製造業)、「宿泊：尖閣諸島問題の影響による中国人客の減少」(ホテル)などのコメントが寄せられた。

#### ◎消費税増税

各業種から、「消費税の値上げがネックになると考えます。お客様の予算は変わらないので税率が上がると実質受注金額が下がるだけであると考えています。そのための先行きが不安です」(印刷業)、「消費税増税が決まってから、全体的な景気が悪くなったという声が多い。私もそのように感じる。これからも益々競争が激しくなり、二極化が進むと思われる」(各種食料品小売業)、「消費税増税の報道の影響か買い控え等があるみたいで業界全体でも売上低下が見られる」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲28.4	▲24.1	▲17.6	▲35.4	▲33.3
6月	▲28.8	▲13.3	▲22.2	▲57.5	▲6.2
7月	▲29.8	▲14.2	▲11.7	▲48.5	▲35.2
8月	▲38.0	▲24.1	▲26.3	▲60.0	▲29.4
9月	▲36.9	▲28.0	▲23.5	▲58.8	▲18.7
10月	▲32.6	▲18.5	▲18.1	▲51.4	▲35.0
見通し	▲31.7	▲18.5	▲36.3	▲45.7	▲20.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成24年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.6(前月水準▲36.9)となり、マイナス幅が4.3ポイント縮小した。

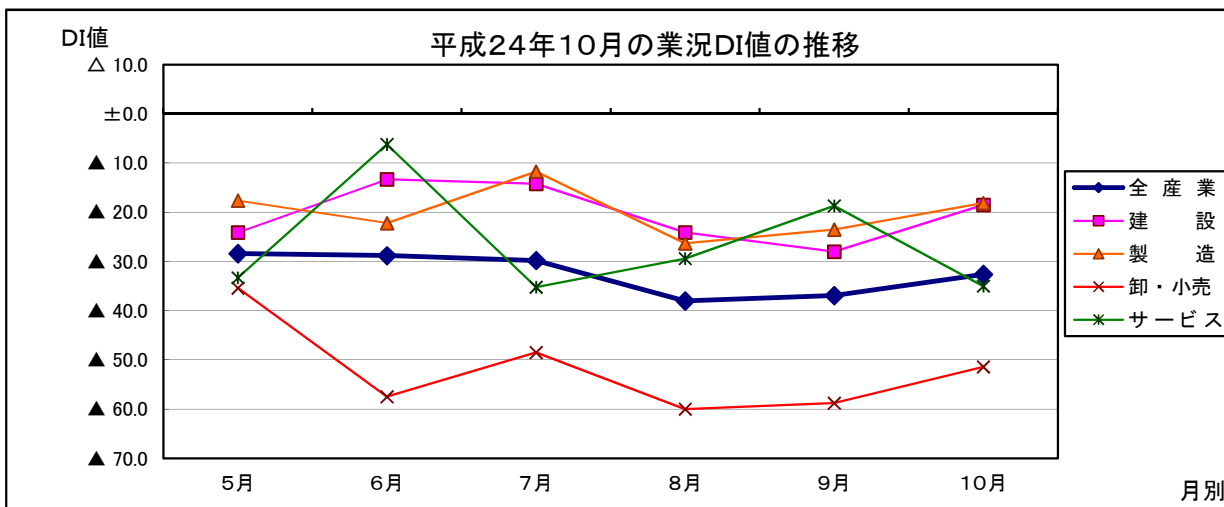
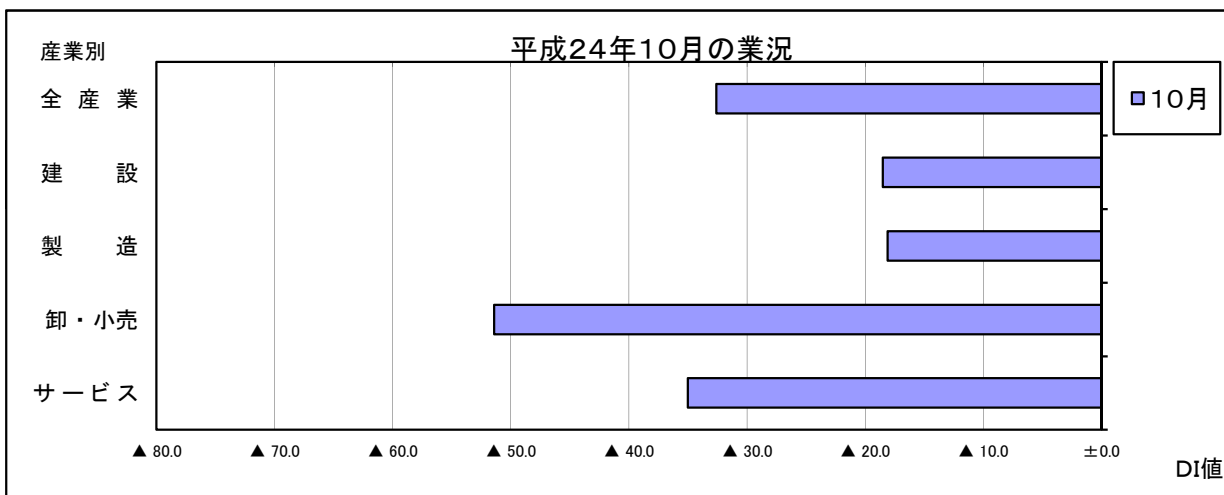
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲18.5(同▲28.0)、卸小売業▲51.4(同▲58.8)、製造業▲18.1(同▲23.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲35.0(同▲18.7)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.7(前月水準▲13.0)となり、マイナス幅が▲18.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲20.0(同6.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲36.3(同▲5.8)、卸小売業▲45.7(同▲26.4)、建設業▲18.5(同▲12.0)である。特に、製造業はマイナス幅が▲30.5ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成24年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲28.4	▲28.8	▲29.8	▲38.0	▲36.9	▲32.6	▲31.7(▲13.0)
建設	▲24.1	▲13.3	▲14.2	▲24.1	▲28.0	▲18.5	▲18.5(▲12.0)
製造	▲17.6	▲22.2	▲11.7	▲26.3	▲23.5	▲18.1	▲36.3(▲5.8)
卸・小売	▲35.4	▲57.5	▲48.5	▲60.0	▲58.8	▲51.4	▲45.7(▲26.4)
サービス	▲33.3	▲6.2	▲35.2	▲29.4	▲18.7	▲35.0	▲20.0(△6.2)



【平成24年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.1(前月水準▲40.2)となり、マイナス幅が19.1ポイント縮小した。

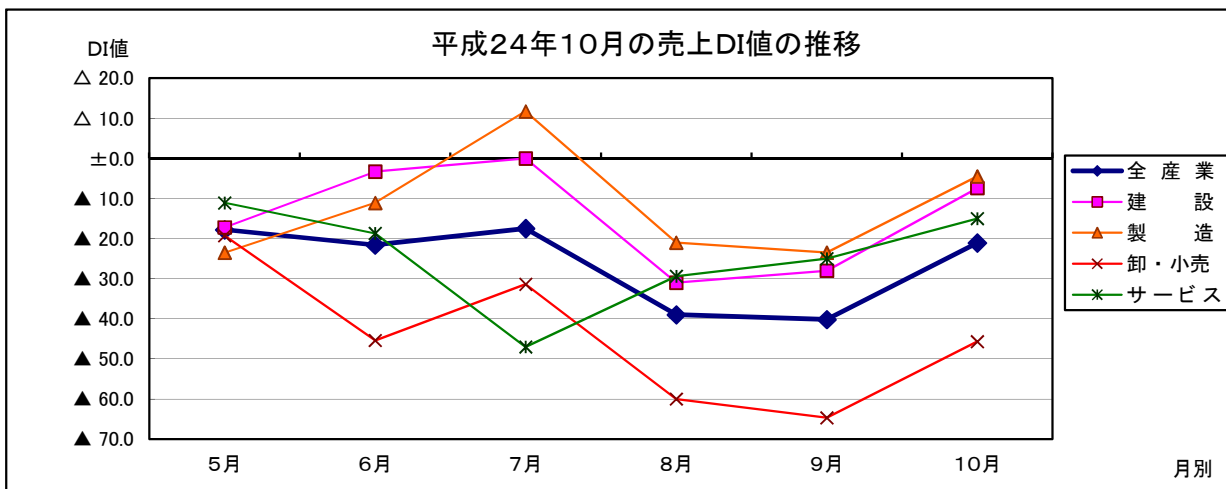
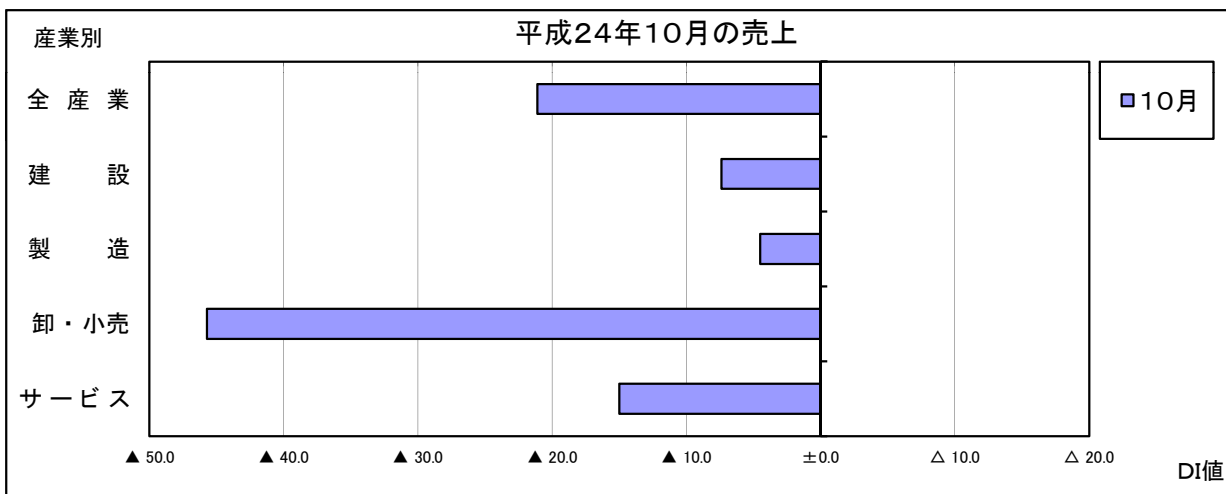
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でマイナス幅が縮小し、幅の大きい順に、建設業▲7.4(同▲28.0)、製造業▲4.5(同▲23.5)、卸小売業▲45.7(同▲64.7)、サービス業▲15.0(同▲25.0)である。特に、建設業はマイナス幅が20.6ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.6(前月水準▲1.0)となり、マイナス幅が▲7.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲14.2(同▲20.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業5.0(同18.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲11.1(同8.0)、製造業▲9.0(同5.8)である。

平成24年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲17.8	▲21.6	▲17.5	▲39.0	▲40.2	▲21.1	▲8.6(▲1.0)
建設	▲17.2	▲3.3	±0.0	▲31.0	▲28.0	▲7.4	▲11.1(△8.0)
製造	▲23.5	▲11.1	△11.7	▲21.0	▲23.5	▲4.5	▲9.0(△5.8)
卸・小売	▲19.3	▲45.4	▲31.4	▲60.0	▲64.7	▲45.7	▲14.2(▲20.5)
サービス	▲11.1	▲18.7	▲47.0	▲29.4	▲25.0	▲15.0	△5.0(△18.7)



【平成24年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.7(前月水準▲45.6)となり、マイナス幅が13.9ポイント縮小した。

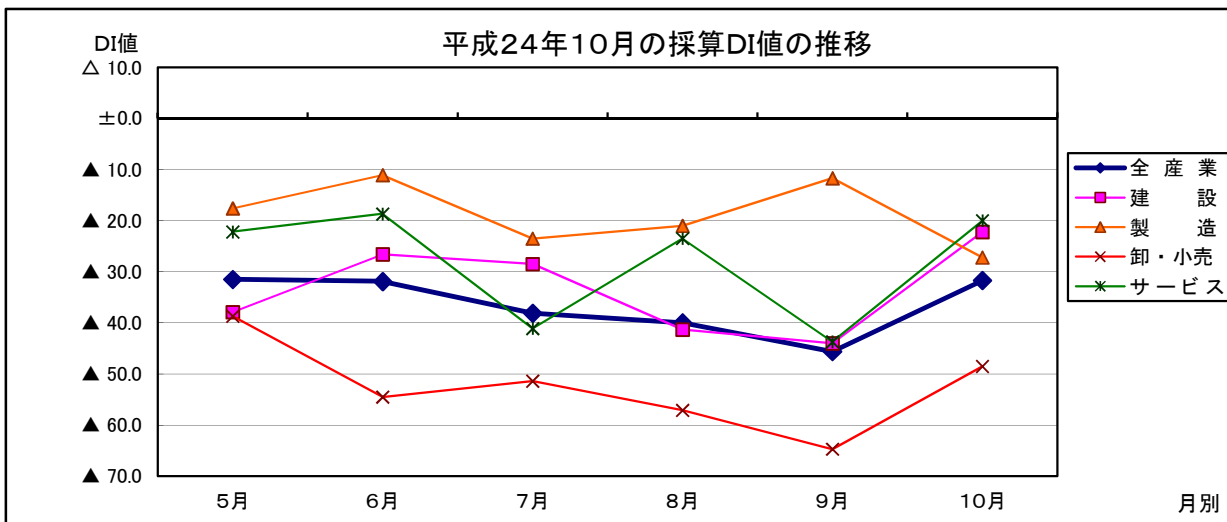
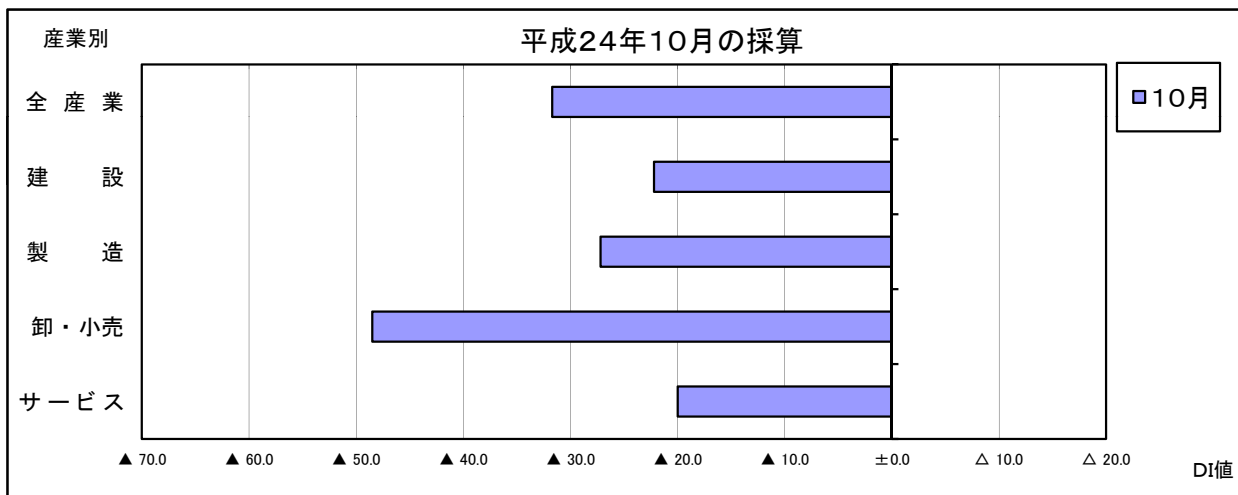
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同▲43.7)、建設業▲22.2(同▲44.0)、卸小売業▲48.5(同▲64.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲27.2(同▲11.7)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.3(前月水準▲13.0)となり、マイナス幅が▲3.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲20.0(同▲26.4)、建設業▲18.5(同▲20.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.0(同6.2)、製造業▲9.0(同5.8)である。

平成24年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲31.5	▲31.9	▲38.1	▲40.0	▲45.6	▲31.7	▲16.3(▲13.0)
建設	▲37.9	▲26.6	▲28.5	▲41.3	▲44.0	▲22.2	▲18.5(▲20.0)
製造	▲17.6	▲11.1	▲23.5	▲21.0	▲11.7	▲27.2	▲9.0(△5.8)
卸・小売	▲38.7	▲54.5	▲51.4	▲57.1	▲64.7	▲48.5	▲20.0(▲26.4)
サービス	▲22.2	▲18.7	▲41.1	▲23.5	▲43.7	▲20.0	▲15.0(△6.2)



【平成24年10月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.5(前月水準▲19.5)となり、マイナス幅が8.0ポイント縮小した。

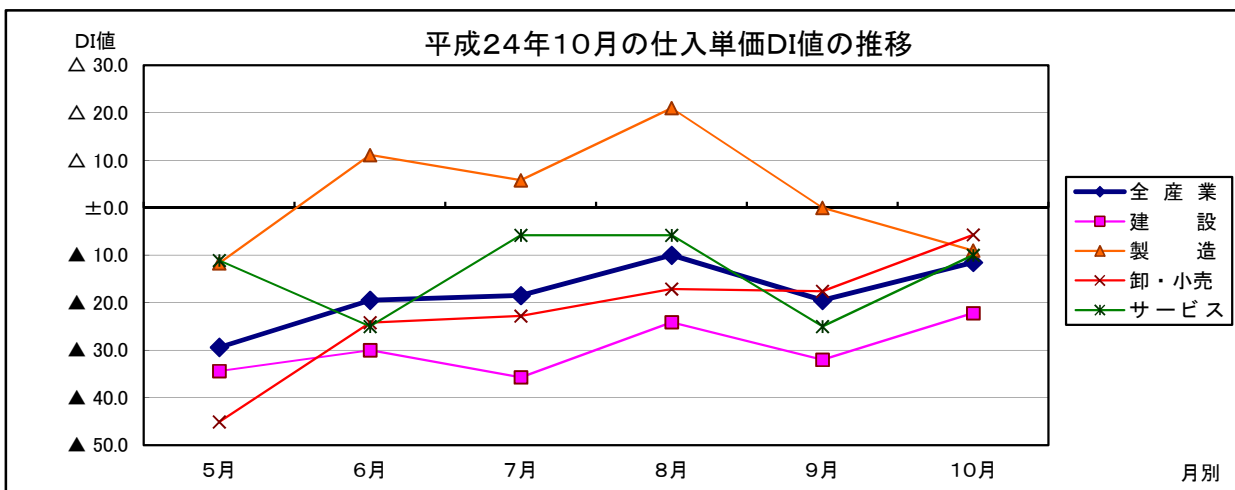
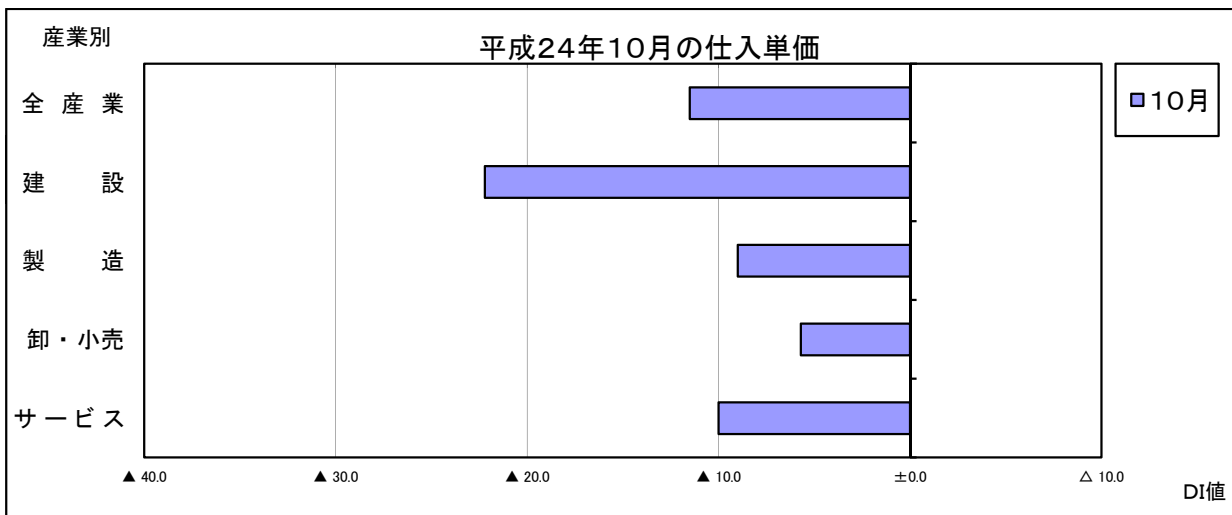
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲10.0(同▲25.0)、卸小売業▲5.7(同▲17.6)、建設業▲22.2(同▲32.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲9.0(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.3(前月水準▲18.4)となり、マイナス幅が3.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲18.5(同▲28.0)、卸小売業▲17.1(同▲20.5)、サービス業▲10.0(同▲12.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲13.6(同▲5.8)である。

平成24年10月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲29.4	▲19.5	▲18.5	▲10.0	▲19.5	▲11.5	▲15.3(▲18.4)
建設	▲34.4	▲30.0	▲35.7	▲24.1	▲32.0	▲22.2	▲18.5(▲28.0)
製造	▲11.7	△11.1	△5.8	△21.0	±0.0	▲9.0	▲13.6(▲5.8)
卸・小売	▲45.1	▲24.2	▲22.8	▲17.1	▲17.6	▲5.7	▲17.1(▲20.5)
サービス	▲11.1	▲25.0	▲5.8	▲5.8	▲25.0	▲10.0	▲10.0(▲12.5)



【平成24年10月の従業員についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲2. 8(前月水準▲4. 3)となり、マイナス幅が1. 5ポイント縮小した。

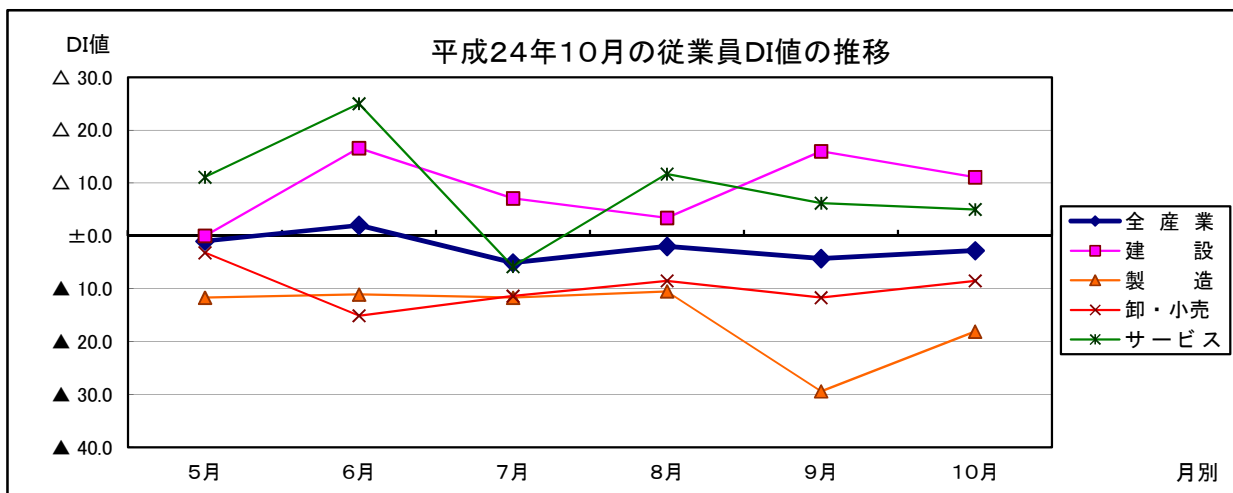
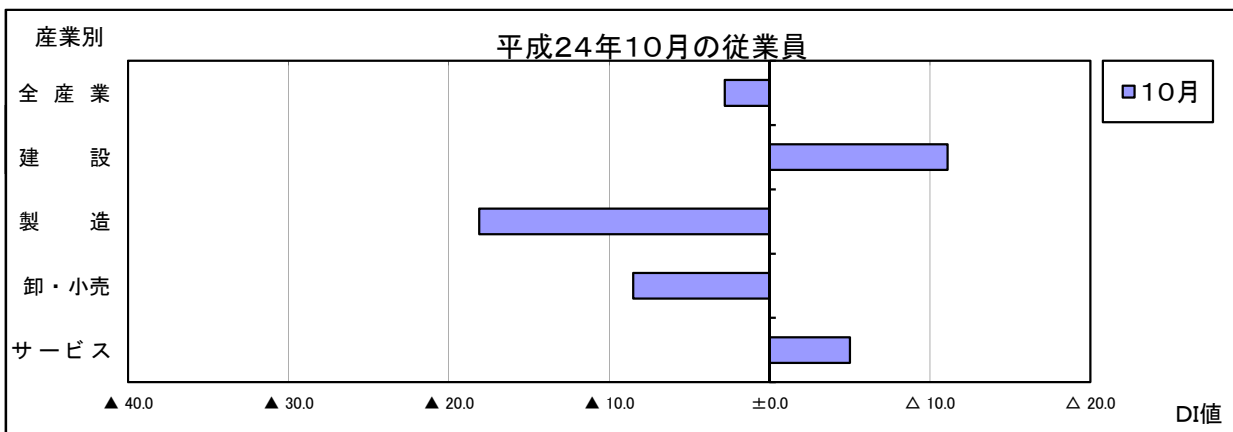
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲18. 1(同▲29. 4)、卸小売業▲8. 5(同▲11. 7)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業11. 1(同16. 0)、サービス業5. 0(同6. 2)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、2. 8(前月水準2. 1)となり、プラス幅が0. 7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲4. 5(同▲23. 5)、卸小売業▲5. 7(同▲5. 8)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業11. 1(同20. 0)、サービス業15. 0(同18. 7)である。

平成24年10月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲1.0	△2.0	▲5.1	▲2.0	▲4.3	▲2.8	△2.8(△2.1)
建設	±0.0	△16.6	△7.1	△3.4	△16.0	△11.1	△11.1(△20.0)
製造	▲11.7	▲11.1	▲11.7	▲10.5	▲29.4	▲18.1	▲4.5(▲23.5)
卸・小売	▲3.2	▲15.1	▲11.4	▲8.5	▲11.7	▲8.5	▲5.7(▲5.8)
サービス	△11.1	△25.0	▲5.8	△11.7	△6.2	△5.0	△15.0(△18.7)





【平成24年10月の資金繰りについての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.1(前月水準▲14.1)となり、マイナス幅が2.6ポイント縮小した。

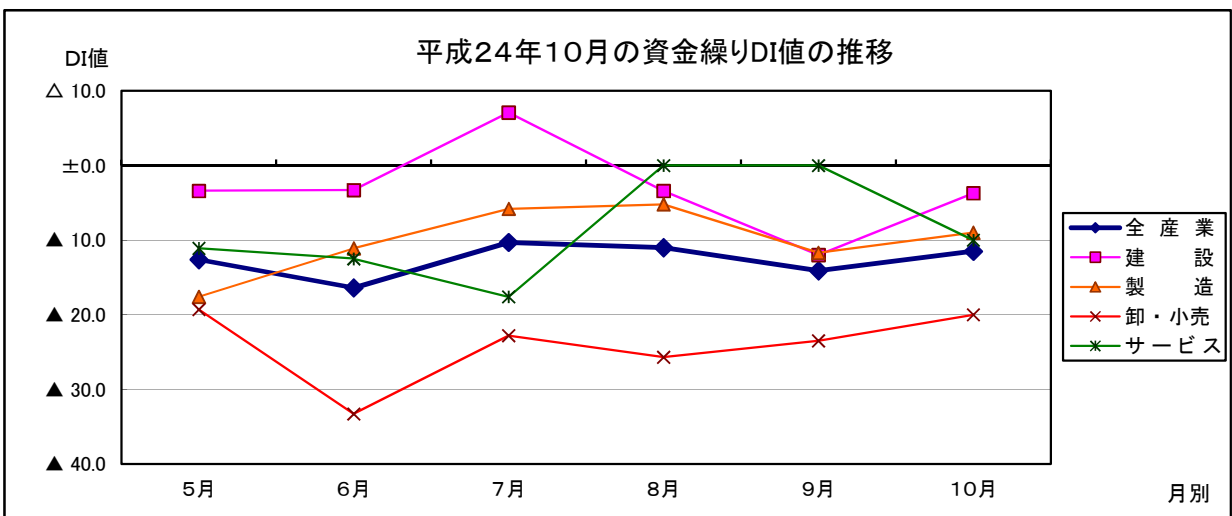
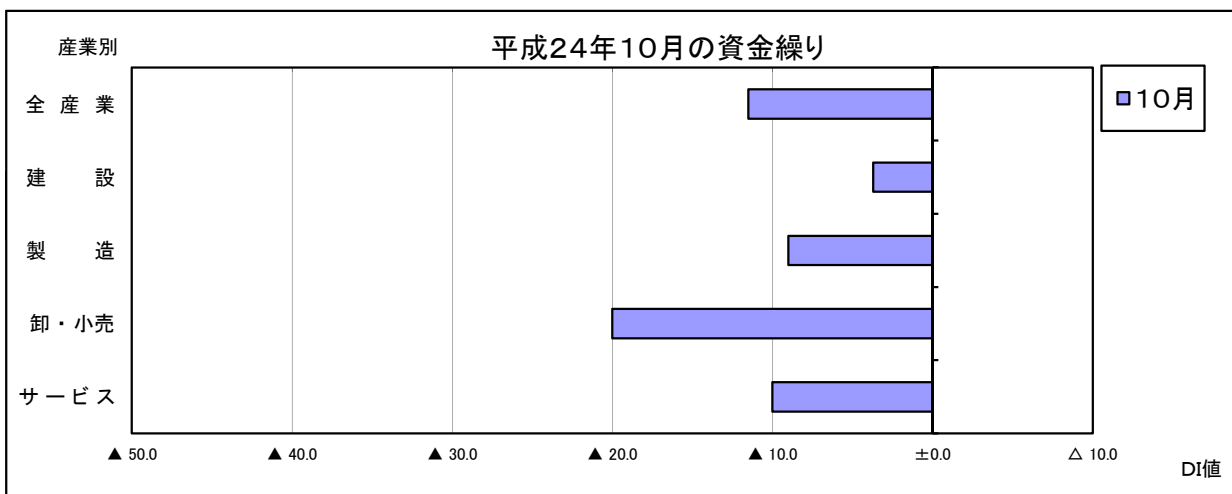
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲3.7(同▲12.0)、卸小売業▲20.0(同▲23.5)、製造業▲9.0(同▲11.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲10.0(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.6(前月水準▲6.5)となり、マイナス幅が▲1.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲14.2(同▲17.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同4.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲5.0(同±0.0)、製造業▲9.0(同▲5.8)である。

平成24年10月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成24年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲12.6	▲16.4	▲10.3	▲11.0	▲14.1	▲11.5	▲7.6(▲6.5)
建設	▲3.4	▲3.3	△7.1	▲3.4	▲12.0	▲3.7	±0.0(△4.0)
製造	▲17.6	▲11.1	▲5.8	▲5.2	▲11.7	▲9.0	▲9.0(▲5.8)
卸・小売	▲19.3	▲33.3	▲22.8	▲25.7	▲23.5	▲20.0	▲14.2(▲17.6)
サービス	▲11.1	▲12.5	▲17.6	±0.0	±0.0	▲10.0	▲5.0(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 21.1	▲ 8.6	▲ 31.7	▲ 16.3	▲ 11.5	▲ 15.3	▲ 2.8	△ 2.8
建設	▲ 7.4	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 18.5	▲ 22.2	▲ 18.5	△ 11.1	△ 11.1
製造	▲ 4.5	▲ 9.0	▲ 27.2	▲ 9.0	▲ 9.0	▲ 13.6	▲ 18.1	▲ 4.5
卸・小売	▲ 45.7	▲ 14.2	▲ 48.5	▲ 20.0	▲ 5.7	▲ 17.1	▲ 8.5	▲ 5.7
サービス	▲ 15.0	△ 5.0	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 10.0	▲ 10.0	△ 5.0	△ 15.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 32.6	▲ 31.7	▲ 11.5	▲ 7.6
建設	▲ 18.5	▲ 18.5	▲ 3.7	±0.0
製造	▲ 18.1	▲ 36.3	▲ 9.0	▲ 9.0
卸・小売	▲ 51.4	▲ 45.7	▲ 20.0	▲ 14.2
サービス	▲ 35.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 5.0

【平成24年10月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設	リフォーム受注に力を入れ、そのために何をすればいいのかわかりやすい提案をしていきたい	リフォーム受注	一般土木建築工事業
	売上採算資金繰り全体が低迷状態。業界でも良い話は無く先行きを心配する声が多い	業況低迷 先行き不安	電気工事業
	年末にかけて駆け込み工事の依頼が増えている。	年末受注増加	塗装工事業
	相変わらず材料高騰、施工単価の引き下げと言った状態が続いている。そんな中で一部材料が品薄状態で早めの発注となり材料値下げに対しての交渉はできない。仕事の依頼はあるものの単価的に採算が合わず断る事も仕方がない状態となっている。赤字にならないなら受注するが完全に採算割れ状態の時すらあり、資金繰りとともにこの先の問題。	材料高騰 材料品薄 単価引き下げ 不採算 資金繰り困難	その他の職別工事業
	「地球温暖化対策のための税」導入に伴うガス料金の改定についてご案内させていただきます。平成24年10月1日より「地球温暖化対策のための税」として石油石炭税に課税の特例が導入され、平成28年4月まで合計3回に分けて、段階的に税率が引き上げられることとなりました。当社がお客さまにお届けする都市ガスは天然ガスとLPGを原料としており、10月からこれらの「ガス状炭化水素」に対する税率が1トン当たり260円の上乗せとなったことに伴い、当社は本日、関東経済産業局長に対し平成24年12月3日を実施日とする供給約款ならびに各種選択約款の変更について届け出ました。平成25年1月検針分のガス料金から適用するもので、供給約款と選択約款において、ガス1m当たりの単位料金(従量料金)を0.21円(消費税込)引き上げさせていただきます。この結果、当社における標準的なご家庭(1カ月33m <sup>3</sup> ご使用)への影響額はプラス7円(消費税込)となります。平成25年1月検針分に実際に適用する単位料金は、原料費調整制度により原料価格の動向を反映させたものになるため、適用期間の原料価格(貿易統計値)が発表され次第、お知らせします。当社は今後とも、ガスの安定供給ならびに保安の確保に努めるとともに、効率的な経営の推進、サービスの向上に引き続き取り組み、お客さまと地域社会の皆さまからの信頼に応えてまいります。	ガス料金の改定	ガス業
	都知事が辞任し政治がどのように変化していくか。尖閣の問題が不透明のまま貿易も安定しない不安だ	政治の変化 貿易不安定	塗装工事業
	涼しくなり年末に向けて畳張り替えなどの工事受注増。好調のきざしです	気候の変化 受注増加	内装工事業
	消費税の値上げがネックになると考えます。お客様の予算は変わらないので税率が上がると実質受注金額が下がるだけであると考えています。そのため先行きが不安です	消費税増税 受注減少 先行き不安	印刷業
	全体的に取引減。自動車関連は減税等が終了した反動と日中間の問題で限定的にマイナス。長引く恐れあり。対策として足元は値上げに見合った支出バランスと機会を増やす事。	取引減少 エコカー減税終了 日中関係	金属素形材製品製造業
	機械の受注はやや持ち直しているが、納期が短い上に金額的にもかなり厳しさを増している。納期が複数、重なっており、その意味でも人員が不足している。新規の部品加工業者からの売り込みが数多くあり、聞く所では大手が海外転出や拠点閉鎖による影響であり、逼迫した様子が伺える。	受注持ち直し 短納期 人員不足 海外転出 拠点閉鎖	その他の機械・同部品製造業
ウイスキー類の出荷堅調	ウイスキー出荷堅調	酒類製造業	
製造	売上の減少。仕入単価の上昇に寄り採算は減少の見込み。生産の効率化や不良品の減少に努めて対策をする。得意先の手が中国の比率が高いので今後影響が来るのでは	売上減少 仕入単価上昇 採算悪化 生産効率化 大手の中国依存	その他の金属製品製造業
	物が売れなくなった	売上減少	紙製容器製造業
	資金繰り的には運転資金の借り入れをしないで運営することを目標と強い、それぞれに状況を説明して支払いの延長を協力していただいたり、入出金のバランスを整えています	運転資金借り入れ 資金繰りの対応	印刷業

【平成24年10月の業種別業界内トピックス】

	中国韓国との政治的及び経済的悪化による輸出の急激な減速とともにEUの経済不安が続いて国内の生産に影響している	日中韓関係 経済悪化 輸出減速 EU経済不安	一般産業用機械・装置製造業
	材料価格は下落傾向出てきているが、昨年から上昇し続けた前までは下がる様子は無い為、依然、利益圧迫要素は無くならない。従業員数がやや不足気味となっている為、求人出しているが反応が良くない。	材料高値 利益圧迫 人員不足	紙製容器製造業
	当社として昨年は新装開店セールがあったので昨年対比では単純に比較できない。業況として弱小メーカーの倒産廃業が続き、中旬に早くも秋物一掃セールを実施したが、そちらは好調であった	メーカー倒産 新装開店 秋物セール 売上好調	婦人・子供服小売業
	秋物衣料もピークがこないまま終了になりそう。冬物衣料も今年も暖冬傾向が予想されコート等に期待できず小物でカバーするしかない。食料品等にも価格に対する要望が大きくなってきている。無駄なものは買わない傾向	暖冬傾向 冬物不調 価格意識	その他の各種商品小売業
	10月度初旬は、日中の気温が高かったことからアウターの動きが鈍く苦戦した。6日(土)～8日(月)の3日間は「開業20周年記念プレミアムキャンペーン」を実施、朝夕の気温低下も後押ししブーツやアウターが動き前年を上回る推移となった。中旬以降、秋冬商材が本格的に動きだしたことに加え、継続的な販促効果から期間限定メニューなどが好評であった飲食店が全体売上の底上げに寄与した。月末に掛けては「アウター＆ブーツフェア」を展開、客単価を上げ売上に繋げる。	天候の影響 秋物商戦 飲食好調 イベント実施	その他の各種商品小売業
卸小売	消費税増税が決まってから、全体的な景気が悪くなったという声が多い。私もそのように感じる。これからも益々競争が激しくなり、二極化が進むと思われる。これからどのように他社、他店との違いを出すかが問われる。	消費税増税 景気悪化 競争激化 二極化	各種食料品小売業
	例年なら涼しくなると売上げが伸びてくるのですが今年は伸び率が先月同様鈍いです。その反面イベント等の売上げが前年より好調です	天候の影響 売上鈍化 イベント好調	菓子・パン小売業
	消費税増税の報道の影響か買い控え等があるみたいで業界全体でも売上低下が見られる	消費税増税 買い控え 売上低下	その他の各種商品小売業
	青果物の動向として秋の気候が野菜の生育順調となり入荷が増加。しかし消費者の購買意欲に期待できず単価安が長期化して厳しい取り扱い状況です。また秋の味覚の果実にあっても平均して同様となっている。今後の経済状況を見ながら安定が望めないことを消費者が感じ取っているようです。	青果物入荷増 購買意識減速 先行き不安	食料・飲料卸売業
	小売価格の値上げをしない限り採算は増加しない。	価格転嫁 不採算	燃料小売業
	依然低い状態であるが中国、韓国との関係で経済の変化が大きく変わる様子	日中韓関係	一般機械器具卸売業
	忘年会新年会で客数・客単価アップ。増収に期待する	客数増加 増収期待	公衆浴場業
	忘年会新年会の予約は昨年より増えています。ただしここ3カ月は前年比で悪く11月も問題と思います。シーズン前に販売促進企画をしていきたい	忘年会 予約増加 販売促進	酒場・ビヤホール
	宿泊マーケットが変わらない中で新規参入ホテルにより客の奪い合い。又、INETでの安売りにより、ベンチマークホテルの価格が下がりに利益薄となる。宴会は営業宴席の減少が目立つ	新規参入 インターネット販売 利益薄 宴席減少	ホテル
	宿泊：尖閣諸島問題の影響による中国人客の減少。婚礼：都内の婚礼施設の開業ラッシュに加え、新交通(つくばエクスプレス等)により都内がより近くなったことにより、都内へ流出する傾向が続いている。	日中関係 中国人客減少 つくばTX 都内流出	ホテル
サービス	割引セール実施で客数はプラスだが、割引ぶんだけ売上は減少。冬物商戦に期待する	割引セール 客数増加 売上減少 冬物商戦	その他の飲食料品小売業

【平成24年10月の業種別業界内トピックス】

個人需要法人需要とも間際化傾向続く。12～1月の年末年始の動向を注視している	間際化傾向 年末年始動向	旅行業
残念ながら不動産業の賃貸の住居系のお客様は柏に来てくれません	客数減少	不動産代理業・仲介業
相変わらず不動産価格及び建売住宅等は下落しています。地元の方が柏市内で条件が良い物件を購入している状況です。外部からの購入希望者は皆無です	不動産価格下落 市内流入皆無	不動産管理業
貸し駐車場がこの一年くらいは満車になったことが無いのでガソリンの高騰やライフスタイルの変化で自家用車を持たない人が増えた感があります	ガソリン高騰 ライフスタイル変化	不動産賃貸業
柏の葉エリアの開発も目に見えて進んでいます。また近隣エリアの開発も進むにつれ人口の流入が期待されています。新しい街づくりに伴い既存市街地のさらなる魅力づくりが東葛全体の活性に繋がっていくと思います	柏の葉エリア開発 人口流入 街づくり	不動産賃貸・管理業




## 平成24年10月のCCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.6に対し、「CCI-LOBO」も▲32.6で変わらない。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・建設業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業・卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.1に対し、「CCI-LOBO」が▲27.5で、柏の方がマイナス幅が6.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.7に対し、「CCI-LOBO」が▲29.4で、柏のほうマイナス幅が2.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業・建設業・製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.5に対し、「CCI-LOBO」が▲18.9で、柏の方がマイナス幅が7.4ポイント小さい。全ての業種で「柏の景気」の方が良く、サービス業は10ポイント以上良い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲2.8に対し、「CCI-LOBO」が0.5で、柏の方がマイナス幅が2.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・製造業・サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.5に対し、「CCI-LOBO」が▲15.9で、柏の方がマイナス幅が4.4ポイント小さい。また全ての業種で「柏の景気」の方が良い。




# 平成24年10月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 32.6	 18.5	 18.1	 51.4	 35.0
CCI LOBO	 32.6	 21.5	 33.8	 45.9	 27.6


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.1	 7.4	 4.5	 45.7	 15.0
CCI LOBO	 27.5	 11.5	 30.3	 39.9	 23.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 31.7	 22.2	 27.2	 48.5	 20.0
CCI LOBO	 29.4	 25.3	 30.1	 36.9	 25.9

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 11.5	 22.2	 9.0	 5.7	 10.0
CCI LOBO	 18.9	 29.6	 15.6	 13.4	 22.9

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 2.8	 11.1	 18.1	 8.5	 5.0
CCI LOBO	 0.5	 3.2	 8.8	 1.9	 5.3

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 11.5	 3.7	 9.0	 20.0	 10.0
CCI LOBO	 15.9	 12.7	 14.1	 20.4	 16.2

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：平成24年10月16日～22日

調査対象：全国の417商工会議所が3076業種組合等にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、大幅悪化、日中関係による影響が拡大

10月の全産業合計の業況DIは、32.6と、前月から6.0ポイントの大幅悪化。中国経済の減速に加え、日中関係の悪化により、自動車をはじめとした日本製品の不買運動に伴う国内メーカーの輸出低迷や減産対応、中国人観光客の急減など、製造業・非製造業を問わず広く影響が及んでいる。

先行きについては、先行き見通しDIが28.9(今月比+3.7ポイント)と改善する見込み。堅調なスマートフォンフォン関連がけん引することが見込まれるほか、冬物商品の動きが期待されることなどが要因。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。超円高の定着や穀物・原油価格の高止まりに加え、日中関係の悪化に伴う影響の長期化に懸念が強まっている。

産業別にみると、業況DIは、全業種で悪化。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下の通り。

【建設業】「太陽光発電の設置工事や介護リフォーム等の受注強化を図る」(建築工業業)、「消費税増税前の駆け込み需要が住宅分野で出始めているように感じる」(建築工業業)、「大型案件があつたものの、大手住宅メーカーや市外の同業者との競争が激しく、総じて受注件数は低調」(一般工業業)

【製造業】「LPGガスの価格が上昇。10月1日から導入された環境税の負担とあわせて、非常に苦しい状況」(陶磁器製造業)、「中国経済の減速に加え、日中関係の悪化により中国向け製品の売上が減少している」(建設機械製造業)、「化学工場の事故による特殊塗料の調達への影響を危惧している」(塗料製造業)

【卸売業】「取引先からの値下げ圧力が増しており、やむを得ず対応したが、収益を圧迫」(コーヒー豆卸売業)、「取引先のスーパーが大手専門店等との競争で苦戦。自社にも影響が及んでおり、新規顧客の開拓が急務」(繊維製品卸売業)、「鉄スクラップ

や紙の価格が下落しており、売上が大幅に落ちている」(再生资源卸売業)

【小売業】「10月に入って涼しくなったものの、いまだ秋冬衣料の動きが鈍い」(百貨店)、「飲食関連はほぼ前年並みで推移しているが、一部では中国人観光客の減少により、売上に影響が出ている」(商店街)、「取引先の中堅メーカーが独自にネット販売を開始。今後、自社の売上への影響を懸念」(化粧品販売)

【サービス業】「光熱費や食料の支出が増加。また、顧客企業が経費節減の一環で恒例の旅行イベントを見送るなど、厳しい状況」(旅館業)、「取引先である国内半導体メーカーの不振により受注が減少。自社では、海外展開を含めた対応策を検討する」(IT機器・ソフト設計開発)、「エコカー補助金終了に伴い、新車の販売台数は前月から減少」(自動車整備・販売業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲17.5	▲24.9	▲7.5	▲14.0	▲29.3	▲13.8
6月	▲21.3	▲19.1	▲13.7	▲14.5	▲34.2	▲21.5
7月	▲25.2	▲25.8	▲18.1	▲23.6	▲43.1	▲15.6
8月	▲23.8	▲19.6	▲21.9	▲27.3	▲34.3	▲16.6
9月	▲26.6	▲16.6	▲27.8	▲19.3	▲40.3	▲22.5
10月	▲32.6	▲21.5	▲33.8	▲29.1	▲45.9	▲27.6
見通し	▲28.9	▲24.2	▲31.6	▲24.6	▲37.7	▲22.6

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI